福田剛年

ふくた・たけとし

社会保険労務士法人エンジー
代表社員

大学卒業後、内燃機関部品のメーカーに就職。資格取得後に脱サラし、2002年に社会保険労務士事務所を開業。介護や障害福祉サービス業に特化し、200社近い顧客に対して、給業支援、行政対応、採用・定着支援、人事・労務相談、人事制度構築などのサービスを提供。行政書士、中小企業診断士の資格も取得し、組織強化のコンサルティングも手掛けている。

武内直亮・ブレインマークスビジネスコンサルタント　エンジーを立ち上げる前はエンジンをはじめとした内燃機関部品メーカーに勤めていたそうですね。どのような経緯で社労士事務所の開業にいたったのでしょうか。

福田剛年・社会保険労務士法人エンジー代表社員　内燃機関部品メーカーでは輸出に関する書類作成や営業に携わっていたのですが、30歳をすぎたあたりで独立を見据えて自分に何ができるかを考えるようになり、社会保険労務士という資格を知ったのです。以来、人事労務という分野に興味を持つようになり、2年ほど勉強して資格を取り、地元の名古屋で開業しました。当時は実務経験もなく、何をしたらいいかわからない状態でしたが、「とにかくお客さまに喜ばれるために働こう」という思いでやっているうちに就業規則や人事制度の作成といった依頼が少しずつ増え、すすむべき道が見えてきました。

懇親会などでコミュニケーションを深める

武内　では、どの時点で介護・福祉業界にカジを切るようになったのでしょうか。転機となった出来事があればお聞かせください。

福田　14年前にたまたま介護・福祉業界のお客さまから仕事をいただき、関連する法律を深く学ぶ機会がありました。そのときに介護・福祉は今後、あらゆる人から求められるサービスになると確信し、この業界に特化していく方針をきめました。

武内　介護・福祉業界にはどのようなニーズがあるのでしょうか。

福田　国内で高齢化がますますすむ一方、介護・福祉施設で働く方々やその家族は将来に対する不安を感じています。事実、介護・福祉業界の皆さんからは「介護報酬の将来はどうなるのだろうか」「労務面の行政指導にどう対応すればいいのだろうか」といった声があがっています。また施設の運営者からは「経営感覚を身につけたい」「職員を集め、定着してもらえるようにしたい」といった声が届くようになりました。だからこそ、私たちは「利用者から評価される施設にするにはどうすればいいか」という観点からアドバイスするようにしているのです。

武内　事務所内ではどのようなことに注力していますか。

福田　介護・福祉業界の多様なニーズに対応するために人材育成に力を入れています。まず採用段階ではコンピテンシー（能力や適性）のミスマッチをなくすことを意識しています。そして、そのうえで事務所と価値観を共有でき、お客さまに寄り添うことができる職員の知識やノウハウを磨いていけるような仕組みづくりに取り組んでいます。また、お客さまのサポートを専任制ではなく、チーム制にしていることも当事務所の特徴のひとつです。チーム制にすることで、職員が一人ひとりの個性や強みを発揮し、迅速かつ的確にサービスを提供できるからです。もちろん、毎月の定例ミーティングなどで各業務の進捗状況や課題は全入りに確認し、サービスにムラが出ないように心掛けています。おかげで、お客さまにはおおむね満足いただけていますが、よりディープな知識やノウハウを得ることによって、サービスレベルの底上げをはかっていきたいと考えています。

武内　今後の展望についてはどうでしょうか。

福田　当然ですが、先方のニーズを詳細にヒアリングしたうえで対応することを徹底していきたいと思います。そして、労務顧問や給与計算、助成金の申請手続き代行といった基本業務に加え、2024年4月から介護・福祉業界で義務化されたBCP（業務継続計画）の策定にも今以上に積極的に対応していきたいと考えています。

　一方で、開業や経営支援にも今まで以上に注力していきます。これまでは私が講師となって中小企業や事業所の後継者、経営幹部の方たちにマネジメントの基礎を学ぶ経営塾を開催したり、介護・福祉業界の経営に欠かせない経営戦略などをアドバイスしたりしてきたのですが、将来的には職員にも講師を務めてもらい、その分の余力で他業界にもサービスを広げていきたいと考えています。

10年後をリードする　未来企業　136

介護・福祉業界に特化して社会ニーズにマッチした社労士業務を展開!!

名古屋市を拠点に介護・障害者施設向けのサービスを展開する社会保険労務士法人エンジー。代表社員の福田剛年氏は2002年の創業以降、地元の福祉施設を運営する企業などを中心に顧問先を開拓してきた。が、介護・福祉の現場からは「自分たちが高齢化したらどうなるのか」といった不安の声も。では、社労士として福田氏はこういった働き方問題にどう対応しているのか、最適解はあるのか。㈱ブレインマークスの武内直亮氏が聞いた。

武内直亮

たけうち・なおあき

株式会社ブレインマークス ビジネスコンサルタント

大手CVS（コンビニエンスストア）で、財務改善、経営改善、経営支援を担当。企業の「本質的な課題解決」に尽力し、多くの経験と実績を積んできた。人材育成を中心とした人事評価制度の構築や理念を中心とした自主性を生み出す組織づくりを得意としている。幅広い経験と実績に裏打ちされたコンサルティングスタイルはクライアントから高い信頼を獲得している。

10年後のためのアドバイス!

エンジーの顧問先は東海地区に200社近くいるそうです。中小規模から大企業まで幅広い顧問先を有し、介護・福祉業界に関する豊富な知識で各種助成の申請代行から労務顧問、職員の処遇改善など、さまざまな業務に対応しています。事務所ではとくにコミュニケーションと迅速な対応に力を入れ、顧問先との信頼関係を構築することを目指しています。ホームページでの情報発信にも熱心で、今後はSNSや動画配信を通じた新規顧客開拓にも注力していくそうです。

福田代表は組織的に介護・福祉業界での知識やノウハウに磨きをかけながら、サービスを拡大していくことを目指しています。と同時に、税理士事務所をはじめとした他士業との連携も視野に入れているとのこと。ブレインマークスとしても、業界特化という強みの向上、そして業務の提供範囲やエリアの拡大を全力で支援したいと思います。

事務所内の様子